

## 令和7年 3月定例会 市長提案説明

3月定例会の開催に当たりまして、所信の表明と令和7年度当初予算の施策のあらましを申し上げ、議会及び市民の皆様方のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

はじめに、

岡崎市医師会様におかれましては、日ごろから救急医療をはじめ地域の医療に多大なる貢献をいただいているところですが、今シーズンは全国的にインフルエンザが猛威を振るい、患者数は現在の統計方法となった1999年以降最多となりました。

年末年始においては、診療を行っている医療機関が少ない中、本市におきましてもインフルエンザの患者数が警報発令基準をはるかに超える状況となったため、夜間急病診療所や休日緊急当番などの一次救急に患者が殺到しました。診療が終了予定時間を大きく超えて、午前3時を超えて行っていただいた日があったり、駐車場に入れられない患者の車列が公道をふさいでしまい警察が出動する事態が発生することがあったりするなど、大変な状況であったと聞いております。しかしながら、医師会の先生方をはじめ、関係者の方々のご尽力により、大事に至ることなく今年の冬のインフルエンザの流行を乗り越えられました。あらためて感謝申し上げます。

今後も、医師会と行政で一体となり、よりよい地域医療体制を構築してまいりたいと考えておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年度は、「岡崎再生・「夢ある新しい岡崎」の実現へ」とし、「市民が岡崎に住んで本当によかった、生まれてよかった」と、心から実感していただけるまちとなるよう、子育て支援・教育の充実、高齢化対策、医療のレベルアップ、交通渋滞の緩和、地産地消の農業推進、若者のキャリア支援といった基本施策を充実させてまいります。そして、このまちに生まれ育った子どもたちが、自らのふるさと・岡崎に対し、これまで以上の大きな愛情と誇りを持てる、そんな「夢ある新しい岡崎」の実現に再び全力で取り組んでまいります。

人口減少が心配される今であるからこそ、そうしたことがより大切であると考えております。

現在、わたくしがいた4年前とは状況が大きく異なり、市の貯金である財政調整基金が大幅に目減りし、扶助費や人件費といった義務的経費の伸びが税収の増を上回る「実質的な歳入減少時代」という状況のなかで、公約の全てを一挙に実現することができないと認識し、まずは、できるところから段階的に確実に進めていきたいと考えております。

高校生世代の通院医療費の無償化については、持続可能な制度とするため、引き続き、財源の確保などの検討や精査が必要と考えており、令和8年4月の実現を目指してまいります。

市立小中学校の給食費無償化については、現在、国において議論されており、国の動向を注視してまいりたいと思っておりますが、給食費の無償化を市単独で全額実施するには大きな財政負担となることから、財政状況を踏まえたうえで段階的に進めてまいりたいと考えております。

令和7年度予算につきましては、国の交付金を活用することで保護者の負担軽減を図ることとし、令和7年度当初予算の補正を本日、提出させていただきました。

具体的には、既に実施しています4月分の給食費無償化に加え、12月分の給食費無償化を実施するほか、給食材料費の高騰に伴う給食費の値上げ分につきましても交付金を活用し、保護者の負担を据え置きいたします。

また、公立保育園及びこども園の給食費の値上げ分や私立保育所に対する値上げ分に相当する補助金の支給を行うことで保護者負担を据え置きいたします。

補正予算の規模としましては、3億3,834万円であります。

市長として3期目の令和7年度の予算編成は、限られた財源の中で市政の諸課題に的確に対応していくため、事務事業評価等を活用し、事業の見直し等に努め、持続可能な財政運営を図りました。

非常に厳しい財政状況でありましたが将来にむけ、現在進行中の大型事業や行政のデジタル化の推進、そして未来を託す子どもたちに関する事業に加え、財政調整基金の残高回復という課題を含めバランスに苦慮しながら予算を編成いたしました。

この点をしっかりやらなければ市民生活の安心安全を保つことができないと考えるからです。

市民の皆様からの大きな期待とさらなる発展に向けて、岡崎再生・「夢ある新しい岡崎」の実現に取り組んでまいります。

それでは、新年度予算に計上いたしました主要事業につきまして、総合計画の分野別指針に沿ってご説明申し上げます。

まず、「暮らしを支える都市づくり」であります。

阿知和地区工業団地造成事業については、令和8年度末の造成完了に向けて、事業者と協力して、造成工事を進めていくとともに、南北アクセス道路を整備することで、地域で課題となっている通勤時間帯の渋滞緩和も図ってまいります。

合わせて、スマートインターチェンジにつきましては、中日本高速道路株式会社と協力し、進出企業の操業開始までの開通を目指し整備を進めてまいります。

街路・道路新設改良事業については、国・県道と連携した道路ネットワークの形成、交通の円滑化や歩行者の安全を図るため、岡崎環状線や矢作川右岸南北道路を含む7路線の整備を進めてまいります。

東岡崎駅周辺地区整備については、2030年の完成に向けて、引き続き橋上駅舎、自由通路、駅ビル、バスターミナル等の一体整備を進めてまいります。

令和7年度におきましては、西から順に進めております岡ビルの解体完了を見込むとともに、並行して自由通路等の基礎工事に着手してまいります。

また、駅前等の周辺街区におきましても、4年間の時の経過と社会の変化を考慮して、改めて本市の玄関口に相応しい姿を検討するなど、「夢ある新しい岡崎」の実現の1つとして努めてまいります。

本宿駅周辺整備では、今年の秋に(仮称)三井アウトレットパーク岡崎の開業予定と伺っております。

多くの方々にお越しいただくことを楽しみにしつつ、引き続き、地域の安全で円滑な交通の確保を目指した道路整備を進めるとともに、交通結節点の機能強化に向けた交通広場の設計などを行い、アウトレットを核とした街づくりを進めてまいります。

公園施設整備については、矢作公園において、地元の皆さまと複数回、開催したワークショップのなかで、いただいたご意見をもとに、まずは東広場のトイレ改修工事に着手してまいります。

南公園整備については、令和9年度の供用開始を目指しており、現在は、概ね解体工事が完了いたしました。引き続き、子どもたちを中心に家族が笑顔になれる楽しい公園として再整備を推進してまいります。

岡崎中央総合公園整備については、アジア・アジアパラ競技大会の競技会場としての基準を満たすよう愛知県からの補助金を活用し、施設の整備を行い、大会の円滑な運営が図れるよう努めてまいります。

さくらの名所づくりの推進では、桜の花が咲くと書く、おかざき(桜花咲)プロジェクトと銘打って、現在クラウドファンディングを実施しているところですが、多くの市民の皆さまや事業者の方々に関心をもっていただき、多額のご寄附をいただいていることに関しまして大変感謝しております。

令和7年度も、本市の貴重な景観・観光資源である岡崎城公園周辺のさくらについて、保全・充実を図るため、樹勢回復処置を継続していくとともに、クラウドファンディングによるおかざき桜プロジェクトの推進を図ってまいります。

次に、「暮らしを守る強靱な都市づくり」であります。

道路施設の老朽化により年々維持管理費が増加しているため、従来の「事後修繕」から点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に修繕し長寿命化を図る「予防保全」に切り替え、効果的かつ効率的な維持管理の実現を推進しております。

近年の気候変動により頻発・激甚化する集中豪雨などの自然災害に強い都市づくりを目指し、六斗目川や前田川支川の改修工事など、各地域における、河川の改修を着実に進めてまいります。

次に、「持続可能な循環型の都市づくり」であります。

ゼロカーボンシティの推進に向けては、環境省の交付金を活用し、市民、事業者に対する太陽光発電などの再エネ設備や高効率な空調などの省エネ設備の補助を行い、岡崎市の脱炭素化を推進してまいります。

食と農の生産・交流・PR拠点エリアについては、いわゆるアグリパークとしての拡充整備につきましては、新たに市が運営する市民農園を

開設するなど、農業支援センターを拠点として、市民の皆さんが農に触れる機会の充実に努めてまいります。

おかざき農遊館につきましては、スマートインターチェンジ開通に伴う北の玄関口にふさわしいエリアとするべく、地元住民や来訪者がどう利用するかという視点で、新たな機能やサービス、ゾーニングの検討を、利用者目線での意見をお聞きしながら、進めてまいります。

次に、「多様な主体が協働・活躍できる社会づくり」であります。

岩津地域活動拠点施設整備については、令和8年度の基本計画策定に向けて、これまでいただきました多くのご意見を分析し、地域の皆様などとワークショップを実施しながら施設の機能案をまとめてまいります。

次に、「健康で生きがいをもって活躍できる社会づくり」であります。

高齢者の健康寿命の延伸と介護予防のため、ごまんぞく体操などの通いの場の充実を図り、また健診の受診勧奨や疾病の重症化予防に取り組むほか、新たなハイリスクアプローチとして、薬剤適正化支援事業を開始いたします。

帯状疱疹予防接種につきましては、従来の任意接種の事業から移行し、令和7年4月からは定期接種となるほか、子宮頸がん予防接種につきましては、条件付きで接種期間を延長してまいります。

岡崎市民病院では、病棟外壁タイル落下による事故を防止するための病棟外壁改修工事を進めるほか、エレベーターや照明設備改修など、施設設備の更新工事を引き続き実施いたします。

また、医療機器の整備では、手術支援ロボットなどの最新医療機器を導入し、市民に高度な医療を提供できる病院として、信頼に依ってまいります。今後とも、医療の質の向上、人材の育成に努めるとともに、良質ながん医療・高度急性期医療を主軸に安全安心な医療を提供してまいります。

次に、「女性や子どもがいきいきと輝ける社会づくり」であります。

留守家庭児童の放課後の居場所確保のため、市営住宅大樹寺荘の建替え整備に合わせ、市営住宅敷地内に放課後児童クラブを併設して、整備してまいります。

次に、「誰もが学び活躍できる社会づくり」であります。

GIGA スクール構想で整備した1人1台タブレット型端末について、運用開始から5年以上が経過することから、段階的に更新を進めるため、2学年分のタブレット端末を更新し、引き続き個別最適な学びや対話的な学びの充実に向け、ICT を活用した授業改革を推進してまいります。

情報教育推進については、令和6年度までに小学2年生から中学3年生の教室に整備した電子黒板について、令和7年度は小学1年生の教室に整備してまいります。これにより、小中学校すべての学年で、電子黒板と1人1台タブレット型端末を連携して情報を交流する授業や、オンライン授業などの新たな学びを提供し、将来を担う子どもたちのために「岡崎の教育の質」をさらに高めてまいります。

また、近年の夏場の異常な暑さの中でも生徒が安心して授業を受けることができるよう、中学校の体育館と柔剣道場にエアコン設置の整備を行ってまいります。

次に、「商業と観光が成長産業となる地域経済づくり」であります。

本市ならではの観光資源を活用した伝統あるイベントを開催し、市内外からの観光誘客を図ってまいります。もちろん、まずは市民がくつろぎ、楽しめるものを目指します。

岡崎城などの定番スポット以外の歴史観光スポットを、地域別の歴史物語めぐりとして、回っていただけるようなコースの造成や、LINE を活用したスタンプラリーなど、コアな歴史ファン以外にも幅広い層に楽しんでいただけるよう努めてまいります。

また、市域面積の6割を占める中山間地域わけでも「オクオカ」でのキャンプ、

モーターキャンプ、バンガローなど民活による様々な滞在コンテンツの造成にも取り組んでまいります。自然環境と間伐材を活かした遊具等も考えております。

広い空間を活かして、高齢者の屋外スポーツ施設の整備もできるでしょう。そうした施策が中山間における新たな職場の創出にもつながります。

次に、「ものづくりが柱でありつづける地域経済づくり」であります。

ものづくり企業の優れた技術・製品の展示・紹介に加え、企業の新たな価値の創造につながるオープンイノベーション等を提案し、自動車産業を中心に大きな変革期をむかえている中で、市内のものづくり企業の新たなビジネスチャンスの創出に向けた、企業の新規事業の立ち上げや課題解決を支援してまいります。

最後に、「スマートでスリムな行政運営の確立」であります。

デジタル技術を活用した新たな取り組みとして、24時間365日市役所への問合せが可能となる行政ヘルプポータルサイトの仕組みを構築するほか、検診や面談の予約がスマートフォンのLINEを使う感覚で可能となる汎用予約サービスの導入を行ってまいります。

そのほか、市民を始めとした多くのかたの利便性向上やデジタル化への対応などを図り、みやすい、わかりやすい、探しやすい、必要な時に、速やかに、正しい情報が得られるホームページへ全面リニューアルを行なってまいります。

以上、主要事業について、ご説明させていただきました。

続いて本議会に提案しております議案について、説明させていただきます。

まず、条例議案であります。制定条例といたしましては、岡崎駅南の土地区画整理による「町の新設に伴う関係条例の整理条例」と、刑法等の一部改正に伴う「関係条例の整理条例」2件であります。

次に、改正条例といたしましては、撤去・保管した放置自転車を

その持ち主に返還するに当たり、その撤去等に要した費用を持ち主から徴収するよう改める「自転車等の放置の防止に関する条例の一部改正」、国民健康保険法施行令の一部改正に伴い、保険料の賦課限度額や、その軽減措置の判定に係る所得基準などを改める「国民健康保険条例の一部改正」など21件であります。

このほか、廃止条例といたしまして、「高齢者生きがいセンター条例の廃止」など3件の廃止条例がありまして、さきの制定条例、一部改正条例と合わせ、26件の条例議案を提案させていただいております。

その他議案といたしましては、東阿知和橋の橋りょう整備に係る「工事請負の契約」や、阿知和地区工業団地の造成に係る「特定事業の契約の変更」など、18件を提案させていただいております。

次に、補正予算について、主なものを説明させていただきます。

一般会計は、利用者が見込みを上回ることによる障がい福祉サービス費の増額、各事業においては、契約差金などに伴う減額、将来の財政需要に備えるための財政調整基金や公共施設保全基金、計画的に未来投資計画等を進めるための東岡崎駅周辺地区整備基金及び公園施設整備基金への積み立て、事業の進捗に合わせた継続費や繰越明許費の追加及び変更などをお願いしております。

また、国の補正予算などにより、全中学校の体育館や柔剣道場のエアコン設置の改修工事 請負費のほか、小・中学校などの大規模改修工事に関わる校舎等特別整備工事請負費の計上などをお願いしております。

企業会計の水道事業及び下水道事業では、国の補正予算による水道管路強靱化工事費や管渠施設築造及び改良工事費などの増額をお願いしております。

以上が、本議会に提案をいたしました議案の概要であります。

昨日、大変うれしいニュースが発表されました。JR 東海グループの名古屋ステーション開発株式会社様から、JR岡崎駅東口において3階建ての複合商業施設の開発を計画しており、来年2026年春の開業を目指し2025年4月から工事の着手をするとのこととです。

JR、愛知環状鉄道やバスを利用される方々、駅周辺にお住まいの市民の皆様にご利用いただきやすい、飲食、物販、医療等といった日常利用に便利なテナントを揃えた商業施設となるようです。バスロータリーがある駅広場とその上空を渡るペDESTリアンデッキに面し、それぞれ直結する施設となります。

入居するテナントの詳細などは、今後発表されるとのこととで、市民の皆様におかれましては、楽しみにお待ちしております。

最後になりますが、

先般の選挙の折に、市議会議員の皆さんと協議して公約を作りましたが、その時に「もっと稼げる岡崎にしてほしい」という声を多くいただきました。その声にも応えるため、停滞してしまった本市の活性化を再始動することにより、岡崎の再生、さらなる発展に全力で取り組んでまいります。

また、市が定める将来ビジョンを達成するため、公民が連携してまちづくりの企画構想を提案する「岡崎再生本部」を立ち上げます。

明るい豊かな社会を実現するためには、変動する社会の流れを的確に把握するとともに、社会の変革に対応するための斬新な取組が必要となります。

まちづくりは行政だけで行うものではなく、市内各地域では多くのまちづくり団体が活動をしていただいているところです。

しかしながら、行政や各団体などが独自にまちづくりをしては、成果があがりやすく、各自が取り組んだ労力も無駄に浪費してしまう

恐れもあります。

これまで私たちの住まうまちは、私たちの力によって育て、発展してまいりました。

今こそ、こうした力を結集させ、地域力を以ってまちづくりを進めるときであると感じております。

そのためには、本市のまちづくりに対する市民の関心を深めることが重要であります。持続可能な市民連携プラットフォームである「岡崎再生本部」を運営することにより、これまで以上に市民参加、市民対話を通じて、将来のまちづくりテーマが組成され、市全体での取り組みに繋がることを期待するものであります。

以上、ご説明を申し上げますとともに、提出をいたしております諸議案につきまして、よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願い申し上げます。私の説明を終えさせていただきます。ありがとうございました。